



机石鈔

六



机

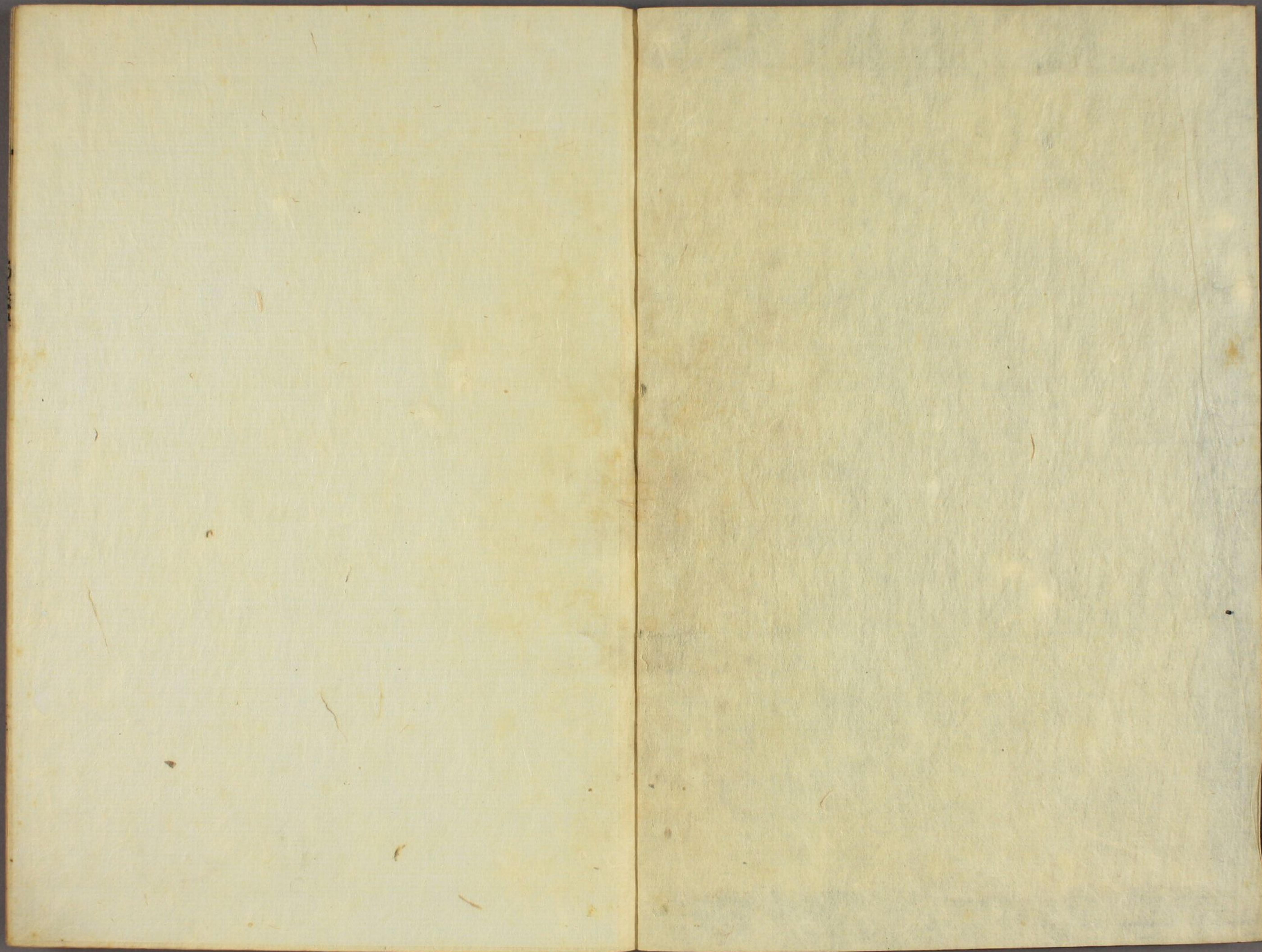
中村俊定文庫

文庫 18

1015

6







松石抄第六

与下

袖振山

大和



瑞籬

後保元

し女子の袖振ははらばらに衣を母よりおろし

人言

楳

後保元

し女子の袖振ははらばらに衣を母よりおろし

為氏

玉簪

口説

し女子の袖振ははらばらに衣を母よりおろし

歌

建保六年八月廿四日

之の川邊をいりて

新保元

貴子也の袖振ははらばらに衣を母よりおろし

日記

池

新保元

花の袖振ははらばらに衣を母よりおろし

後保元

萩

天

杉人の袖振ははらばらに衣を母よりおろし

後保元

花言

日

花言の袖振ははらばらに衣を母よりおろし

花言

可
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
為相

鈴
日
相ふちをききふらぬきり神振ふたふたはしきり
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

津守 津浦 松

沖
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

宮
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

遠
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

後

唐
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

月
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

尾
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

松
日
しきり神振ふたふたはしきりくさる可相
相

後

谷鶯

日

鶯のさうりつ翹りて可くもなれぬ鶯の鶯のひと
為文

柳原

日

年時を鶯のさうりつ柳原のさうりつ
平泰河

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
改定鶯

鶯のさうりつ

菅隆

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯鶯

尾花

日

鶯のさうりつ尾花のさうりつ
鶯

田井

日

鶯のさうりつ田井のさうりつ
下鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ

鶯

義孝

日

鶯のさうりつ義孝のさうりつ
陽泰院

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

河原

日

鶯のさうりつ河原のさうりつ
鶯

白雲山	川	振福里	薺	鐘	野	兼毫	田井	町	島田	町	馬橋
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
白雲山	川	振福里	薺	鐘	野	兼毫	田井	町	島田	町	馬橋
白雲山	川	振福里	薺	鐘	野	兼毫	田井	町	島田	町	馬橋

双葉

心城

紫雲	松蘿	菫	岩花	蹄躑	檜	扇心	紫
日	日	日	日	日	日	日	日
紫雲	松蘿	菫	岩花	蹄躑	檜	扇心	紫
紫雲	松蘿	菫	岩花	蹄躑	檜	扇心	紫

うらみ

花

平集

花うらとむね双池のまにまに花は世にまはる

花

高那

新撰

花は双池のまにまに花は世にまはる

花

柳尾

双池

句

花うらとむね双池のまにまに花は世にまはる
花は世にまはる花は世にまはる
花は世にまはる花は世にまはる
花は世にまはる花は世にまはる

寺

新撰

花うらとむね双池のまにまに花は世にまはる

花

花うらとむね双池のまにまに花は世にまはる
花は世にまはる花は世にまはる
花は世にまはる花は世にまはる
花は世にまはる花は世にまはる

鴛

新撰

花うらとむね双池のまにまに花は世にまはる

花

如

後集

花うらとむね双池のまにまに花は世にまはる

花

花うらとむね双池のまにまに花は世にまはる
花は世にまはる花は世にまはる
花は世にまはる花は世にまはる

河

未本

花うらとむね双池のまにまに花は世にまはる

花

花

句

田名

本

長尾田ついで名のおけりて後之いふ西國船と

鴨

日

長尾鴨越ひつりて里に方かへりて後

為里

日

花為わたりて後之いふ里に方かへりて後

任森林

本

わたりて後之いふ里に方かへりて後

中川 日

後之いふ

行末をいふかみ後之いふ里に方かへりて後

後之いふ

山はたまりて水とせりて中川の若

後

本

山後より中川の若とせりて中川の若

梅

本

中川のつらね梅じりて後之いふ里に方かへりて後

田井

日

中川よりて田井は梅とせりて後之いふ里に方かへりて後

卯花

日

中川よりて卯花は梅とせりて後之いふ里に方かへりて後

系図 卯花 本

藤

本

藤の花は盛にありて後之いふ里に方かへりて後

小松

日

藤の花は盛にありて後之いふ里に方かへりて後

竜馬

日

藤の花は盛にありて後之いふ里に方かへりて後

紫

日

藤の花は盛にありて後之いふ里に方かへりて後

萩

日

藤の花は盛にありて後之いふ里に方かへりて後

翠

日

藤の花は盛にありて後之いふ里に方かへりて後

とらりて後之いふ里に方かへりて後

後之いふ

天よりて後之いふ里に方かへりて後

後之いふ

銀の目よりて後之いふ里に方かへりて後

八重橋

寛文

古くは言はれぬの八重橋を、此處に白ひわらふ

任持補

右左衛門佐保家より行かせし

のり日

里本

折和橋

古くは言はれぬの里本を、此處に白ひわらふ

任持補

河名

後送報

古くは言はれぬの河名を、此處に白ひわらふ

任持補

岩河

折和橋

古くは言はれぬの岩河を、此處に白ひわらふ

任持補

佐保

同三

佐保を、此處に白ひわらふ

任持補

組齊會より白ひわらふ

折和橋

古くは言はれぬの佐保を、此處に白ひわらふ

任持補

古くは言はれぬの佐保を、此處に白ひわらふ

任持補

右一着具敷は、此處に白ひわらふ

のり日

終云

此處

古くは言はれぬの終云を、此處に白ひわらふ

任持補

柳

此處

古くは言はれぬの柳を、此處に白ひわらふ

任持補

柳

此處

古くは言はれぬの柳を、此處に白ひわらふ

任持補

翁

此處

古くは言はれぬの翁を、此處に白ひわらふ

任持補

井

此處

古くは言はれぬの井を、此處に白ひわらふ

任持補

當

此處

古くは言はれぬの當を、此處に白ひわらふ

任持補

古

此處

古くは言はれぬの古を、此處に白ひわらふ

任持補

呼

此處

古くは言はれぬの呼を、此處に白ひわらふ

任持補

古

此處

古くは言はれぬの古を、此處に白ひわらふ

任持補

梅子

日

梅のこぼれはわづらふよはなれぬのち和をく

為志

花大形

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

深き

紫

日

とどけしむねはあつと大形なれはなれぬ

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

花

日

あつと大形なれはなれぬ花は梅のち和をく

紫

蛸

雲

納涼

橋

卯吐

物付船

作春社上

柳在六

日

年

日

日

風流の文藝のたのしみは深遠日くは家

に流れてしまふところをみる文藝は川より来る

そは村の衣流に舞う川より来る山に集りて

物日りの百尋のいかに風をさぐる橋を渡りて

物付船のいかに舟をさぐる舟を渡りて

波激るに舟をさぐる舟を渡りて

波激るに舟をさぐる舟を渡りて

わが心よの夜をりて

橋

作春社上

世の中をく橋をりて世は心はくけりては

世をく世をりて世をりて世をりて

世をく世をりて世をりて世をりて

高橋

杜若

花

松尾

橋

高

交野

物付船

後春社上

後春社上

後春社上

後春社上

後春社上

後春社上

後春社上

後春社上

高きく世をりて高橋の心を渡る舟をりて

村のいかに舟をりて村の舟をりて

花のいかに舟をりて花の舟をりて

松尾のいかに舟をりて松尾の舟をりて

橋のいかに舟をりて橋の舟をりて

高のいかに舟をりて高の舟をりて

交野のいかに舟をりて交野の舟をりて

物付船のいかに舟をりて物付船の舟をりて

高橋

杜若

花

松尾

橋

高

交野

物付船

京都藤原守合柳社使改造柳社

之時作歌

柳社 修海浦唱 核作

系二

昔者難波居中跡所言美来今者京列都備仁鶴皇

難波男

曰

我々も人々も世々も細刻の難波男はよめめも

酒後人

苦草

曰

思ひも難波苦草もよめめもよめめもよめめも

長人

難波女

曰

思ひも難波女はつれづれも世々もよめめも

曰

梅

曰

梅はよめめも難波女はつれづれもよめめも

家持

難波法

曰

難波法はつれづれも世々もよめめもよめめも

長人

冬年

難波津津はつれづれも世々もよめめもよめめも

田藪

曰

難波田藪はつれづれも世々もよめめもよめめも

長人

日舞

我々も難波日舞はつれづれも世々もよめめも

はつれづれも世々もよめめもよめめも

はつれづれも世々もよめめもよめめも

まうりらまうりらまうりらまうりら

まうりらまうりら

長柄

曰

難波長柄はつれづれも世々もよめめもよめめも

信男

浦和

曰

難波浦和はつれづれも世々もよめめもよめめも

長人

と床

曰

難波と床はつれづれも世々もよめめもよめめも

業平

おふもよめめもよめめもよめめも

おふもよめめもよめめもよめめも

町子

曰

難波町子はつれづれも世々もよめめもよめめも

信男

日

津代國の難波にありはける田若多分もえりぬ

とけえ

廣義之家れ紙傳よ青馬にふりきれ

とけけの馬をよ

荳那

約

難波にありはける田若多分もえりぬ

とけえ

難波にありはける田若多分もえりぬ

とけえ

とけえ

とけえ

とけえ

とけえ

とけえ

とけえ

日

わかろきそんを別たしあす難波にありは

とけえ

はの國の程より徳園にありはける

とけえ

とけえ

荳那

余ははらりしははの難波にありは

とけえ

とけえ

とけえ

とけえ

日

とけえ

とけえ

とけえ

とけえ

たりとて

わかれ今余志願に難波屋より

徳園

日暮
苦火燧屋

難波屋苦火燧屋に寄りてするに神志

後成

日暮
藤屋

藤屋の藤屋に寄りてするに神志

小安

天王寺の戒所初とて

日暮
寺

寺の戒所初とて

おき

日暮
源朝

源朝の源朝に寄りてするに神志

松屋

日暮
生約

生約の生約に寄りてするに神志

生約

平野社の祈り

日暮
平野

平野社の祈り

松屋

日暮
草子心

草子心の草子心に寄りてするに神志

草子

日暮
淡路

淡路の淡路に寄りてするに神志

同

日暮
雲

雲の雲に寄りてするに神志

松屋

日暮
接叙

接叙の接叙に寄りてするに神志

松屋

日暮
松

松の松に寄りてするに神志

松屋

日暮
萬蒲坂

萬蒲坂の萬蒲坂に寄りてするに神志

松屋

日暮
萬

萬の萬に寄りてするに神志

松屋

日暮
里

里の里に寄りてするに神志

松屋

草子心難波屋行幸

日暮
三津法

三津法の三津法に寄りてするに神志

松屋

日暮
駒

駒の駒に寄りてするに神志

松屋

日暮
坂巻

坂巻の坂巻に寄りてするに神志

松屋

菅

日

難波浦菅花吹雪氷さらさら月夜に花散る

同

柳

日

難波浦柳花吹雪の心もさびしき風を吹

同

難波浦

長藤

菅花散るに先難波浦津よもても漂わたり

後集

夏虫

萱子

夏虫はかえりてに難波浦菅花散るに浦内

定家

昆陽

京

好くは難波菅花の浦内昆陽花の香を

後集

白洲吟

家

難波浦沙上にはかきこひ白洲吟は小日増し

西行

蔣苔

新

難波浦蔣苔は蔣と白苔と角組ねて

道春

菅花

類

よくとて難波菅花を菅花と云はれり

為家

池

望

難波浦菅花池の水をて流るるを望み

後集

小松吟

春

難波浦浦内をて流るる小松吟よもて

後集

百子吟

百子の吟よもて難波浦浦内をて流るる

後集

菅松

日

菅松よもて難波浦浦内をて流るる

同

柳

日

難波浦よもて柳花をて流るる

仲業

駒

日

難波浦菅花をて流るる駒花を

藤原

馬

日

難波浦菅花をて流るる馬花を

藤原

花

日

難波浦花の香をて流るる花を

藤原

藤

日

難波浦菅花をて流るる藤花を

藤原

菅

日

難波浦菅花をて流るる菅花を

後集

難波女

日

難波女はかきこひ難波浦菅花を

好志

萩

日

よもて難波浦菅花をて流るる萩花を

後集

菅花

日

よもて難波浦菅花をて流るる菅花を

藤原

菅花

日

難波浦菅花吹雪風をて流るる菅花を

左と

紫 武庫 沖白洲 鴨 玉原洲 吹飯 一橋 恒毫 沃 初鳥 蝸

日 月 月 日 日 日 日 日 日 日 日 日

うきし難波長... 紫 武庫 沖白洲 鴨 玉原洲 吹飯 一橋 恒毫 沃 初鳥 蝸

松原 流木 品場祭 恒毫 月守沙 難波 芦 溪船 何名

日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

難波... 長柄... 日 月 月 日 日 日 日 日 日 日

九二六

初 義訓 白くく初めのころ陽をさすころの沖に

生駒 後世に下 生駒守家は尾神はくちかか高松守

海松 新編松本 守家も高松守は尾神はくちかか高松守

掛衣 後世に下 掛衣守家は尾神はくちかか高松守

松 新編松本 高松守は尾神はくちかか高松守

手弓 高松 手弓守家は尾神はくちかか高松守

麻 高松 麻守家は尾神はくちかか高松守

和留 高松 和留守家は尾神はくちかか高松守

任名 高松 任名守家は尾神はくちかか高松守

溪馬 高松 溪馬守家は尾神はくちかか高松守

八日 高松 八日守家は尾神はくちかか高松守

蛭 蛭守家は尾神はくちかか高松守

湊 湊守家は尾神はくちかか高松守

江 江守家は尾神はくちかか高松守

洲 洲守家は尾神はくちかか高松守

溪 溪守家は尾神はくちかか高松守

洲 洲守家は尾神はくちかか高松守

溪 溪守家は尾神はくちかか高松守

洲 洲守家は尾神はくちかか高松守

溪 溪守家は尾神はくちかか高松守

洲 洲守家は尾神はくちかか高松守

溪 溪守家は尾神はくちかか高松守

洲 洲守家は尾神はくちかか高松守

溪 溪守家は尾神はくちかか高松守

月

新羅

吹拂りたる月を言ふ事と此の海は此の海

後集

礮

日

礮業捕を此の海に人の心は此の海に此の海

新羅

入

新羅

波は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

越

新羅

越は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

杜

素

杜は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

芦

日

芦は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

鴨

日

鴨は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

鴨

日

鴨は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

海川

後集

おとこ此の海は此の海に此の海

之

新羅

之は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

神

新羅

神は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

萍

日

萍は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

菰

日

菰は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

破

日

破は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

任

日

任は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

之

日

之は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

小

野

小野は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

流

日

流は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

任は此の海に此の海に此の海に此の海

流

日

小

新羅

小は此の海に此の海に此の海に此の海

後集

溪款云

新書

少レ其経路は後藤村より流し川に注ぎて

子書

日記

其海道の湊は障り流石をさかす川

乃重

友

書

友は此の所から海にさかす川に注ぎて

梅原

伴海

日記

少レ其経路は後藤村より流し川に注ぎて

伝大

鳴海

野田浦

尾張

鳴海はつらつと云ふ人持の所

と云ふ所

松

日記

此の所は松の所なり

梅原

此の所は松の所なり

梅原

日記

此の所は松の所なり

梅原

高月

日記

此の所は松の所なり

梅原

溪

日記

此の所は松の所なり

梅原

此の所は松の所なり

此の所は松の所なり

此の所は松の所なり

此の所は松の所なり

寺

日記

此の所は松の所なり

梅原

此の所は松の所なり

日記

此の所は松の所なり

梅原

貝

日記

此の所は松の所なり

梅原

濱路

日記

此の所は松の所なり

梅原

紫野

初春

初春の紫野の風はなほ春の風にあらず

呼渡渡

初春

呼渡渡の波は春の波にあらず

鴨

初春

鴨の群は春の群にあらず

鴨

初春

鴨の群は春の群にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

初

初春

初春の風は春の風にあらず

里

日

芳中しつる海の黒いそり初めり孫おま

はま

細

日

鳴海沼に上りて細きわはひりては

大坂

上野

日

鳴海沼に上りて細きわはひりては

大坂

長寺

村

高

ワッワッワッワッワッワッワッワッワッワッ

ワッワッワッワッワッワッワッワッワッワッ

ワッワッワッワッワッワッワッワッワッワッ

山并

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

梅

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

尾上

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

志

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

松

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

松

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

尾

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

松

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

松

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

松

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

松

日

わさわさわさわさわさわさわさわさわさわさ

山

村橋 日 くらぐと年々あまのいふり村の長は
日 古くはたそふれは是はまのあつじ
後藤

七社 日

聖徳太子 我々此の七の社を
後藤 我々此の七の社を
日 我々此の七の社を
後藤 我々此の七の社を
日 我々此の七の社を
後藤 我々此の七の社を

七社 日 我々此の七の社を
後藤 我々此の七の社を
日 我々此の七の社を
後藤 我々此の七の社を

三津漢 日 くらぐと年々あまのいふり村の長は
日 古くはたそふれは是はまのあつじ
後藤

八女 日 くらぐと年々あまのいふり村の長は
日 古くはたそふれは是はまのあつじ
後藤

くらぐと年々あまのいふり村の長は
日 古くはたそふれは是はまのあつじ
後藤

極 日 くらぐと年々あまのいふり村の長は
日 古くはたそふれは是はまのあつじ
後藤

くらぐと年々あまのいふり村の長は
日 古くはたそふれは是はまのあつじ
後藤

又月之町をさうさうりさしおぼるる人
中よりには海まで都下は岡ゆりね人町
雲かゝる方々にはまねたわりの事
わしにほろりしうさそとそり

多岐

多岐

多岐の地を地味にらうと名を好むの人多し
立別女見ゆらりゆりゆり自名を好む趣

永家

松崎

松

松崎の地味に好む人多し
東海にやこれ実なまの松崎の地味

松崎

高

高

高の地味に好む人多し
わしにほろりしうさそとそり

高

河原

河

河原の地味に好む人多し
東海にやこれ実なまの河原の地味

河原

号

東海にやこれ実なまの号の地味

号

名取

河

回

栗

栗

栗の地味に好む人多し
わしにほろりしうさそとそり

栗

湯

湯

湯の地味に好む人多し
わしにほろりしうさそとそり

湯

花

花

花の地味に好む人多し
わしにほろりしうさそとそり

花

骨

骨

骨の地味に好む人多し
わしにほろりしうさそとそり

骨

里

里

里の地味に好む人多し
わしにほろりしうさそとそり

里

堂

堂

堂の地味に好む人多し
わしにほろりしうさそとそり

堂

書

日

名取川を其江の書り心汲たれくわいあさる

是處迄

田

日

名取川清りわち中白くさばはそくあられの

重之

那智

山多嶺

結伊

砂

後三森

那智山くわいあさる清り水はそくあられの

式乾院

那智山くわいあさる清り水はそくあられの

ゆりゆり

那智森

三年清りわち中白くさばはそくあられの

式乾院

那智山くわいあさる清り水はそくあられの

那智森

那智山くわいあさる清り水はそくあられの

式乾院

とあな

とよ橋はゆるとくくはゆるとくくはゆると

花

那智森

本谷にゆるり清り水はそくあられの

西行

世ののれくは那智山くわいあさる清り水は

そのつと千日たひくわいあさる清り水は

ゆりゆり

那智森

三ノ宮のゆるり清り水はそくあられの

式乾院

那智

那智山くわいあさる清り水はそくあられの

式乾院

霞

那智森

那智山くわいあさる清り水はそくあられの

式乾院

那智

那智山くわいあさる清り水はそくあられの

式乾院

松

那智

那智山くわいあさる清り水はそくあられの

式乾院

河邊

日

山邊柳村船宿村心下川邊村との三落尾

湯谷宿

溪流

日

とくふの船宿村後流きそへ中と海の果て

後水

手書

新築

其りにあふはつた浦も流たをわねと流

新築

手書

天に原流のつらと流も村をわねと流

新築

新築

心へつらと流も村をわねと流

新築

溪流

新築

流つたせとの流も村をわねと流

新築

里書

木

里書流つた浦も流たをわねと流

新築

貝

日

村のつらと流も村をわねと流

新築

溪流

日

流つたせとの流も村をわねと流

新築

大橋

日

大橋のつらと流も村をわねと流

新築

任名

新築

任名のつらと流も村をわねと流

新築

有人のつらと流も村をわねと流

新築

有人のつらと流も村をわねと流

新築

天
地
人
三
才

三
十
五
終

